

## ■ ともに高め・輝かそう自分のよさ、老中のよさ、地域のよさ

(老上中学校)

### 【活動の趣旨】

「スクール ESD くさつプロジェクト」と「地域協働合校」を連動させながら、様々なことを知る、考える、挑戦する機会として探究的な体験活動や意見交流を通し、地域とともに将来を考えるきっかけにすることをめざす。

### 2 【特徴的な活動内容】

#### ○「書道教室」(7月～9月)

地元の書家をお招きし、書道の楽しさと上達を目的として全校生徒が競書会に向けて熱心に取り組んだ。

#### ○「OBE(老上防災教育)“OIKAMI BOUSAI Education”」(1年生)

老上学区での地域・企業・行政の防災活動を知り、実際に地域を回って防災の視点から危険箇所を調べた。学んだことをオリジナル防災マップにまとめ、今後は地域への発信や避難体験など交流を進めていく。

#### ○「老上三方よしプロジェクト(琵琶湖環境学習)」(2年生)

地域の協力で刈り取ったヨシを使って葦簀を作り、教室に設置して室内環境の変化を調べた。また、イナズマロックフェスでは滋賀をPRするブースを出展し、ヨシの価値や環境保全の役割を発信した。今後もヨシを活用した商品開発など、マーケティングの学習に取り組む予定である。

#### ○「ORP(老上再発見学習)“OIKAMI Rediscovery Project”」(3年生)

老上学区が持続可能で魅力ある街になるためには何が必要かを考えた。「老上について知る」「老上の良さを伝える」「私たちにできることを考える」の3つを柱に、校区内でのフィールドワークや地域の方による講演会を実施し、地域の魅力を発信する学習に取り組んだ。

### 3 【実施に当たっての工夫】

校区内の二つのまちづくりセンターと密接に連携し、地域と協働した取組を進めている。記者提供を通じて地域機関とも情報を共有し、2名の地域コーディネーターが地域人材との連絡調整を担っている。また、活動の様子は学校ホームページで積極的に発信し、地域とともにある学校づくりを推進している。

### 4 【事業の成果】

- ・「総合的な学習の時間」を中心に、各教科を横断・往還してESDの視点を取り入れ、成果物の掲示や紹介を行った。
- ・地域の方々や企業、学生ボランティアと協働し、「持続可能な社会の創造」を自分事として考えることができた。

### 5 【事業の今後の展望】

- ・体験活動の成果を「まとめ」、「発信」することはできたが、そこからさらに意見を反映し「将来」について考えていくサイクルを確立する必要がある。



【書道教室】



【OBE】



【三方よし】



【ORP】